

第59号

なら農業委員会だより

平成27年4月1日発行

発行・編集

奈良市農業委員会

〒630-8580

奈良市二条大路南一丁目1番1号

☎0742-34-4776 (ダイヤル)



がんばるファーマーNo.19

やまとうし

奈良のブランド牛「大和牛」

主な内容

- 農業委員会1月定例総会 (P2)
- 奈良市賃借料情報 (P6)
- 平成27年度農業施策に関する要望書 (P2)
- 農地中間管理事業を活用して (P6)
- 現況届の提出について (P3)
- 農耕と神事～その四～ (P7)
- パブリックコメント募集について (P3)
- 平成26年遊休農地解消モデル事業 (P8)
- がんばるファーマーNo.19 (P4～5)
- 筒粥祭(登彌神社)・編集後記 (P8)

○ 奈良市役所ホームページアドレス <http://www.city.nara.lg.jp> ※ホームページからもご覧いただけます。

○ 奈良市役所コールセンター TEL 0742-36-4894

●平成27年 奈良市農業委員会1月定例総会を開催しました

平成27年1月29日、仲川市長、土田市議会議長を来賓に招き、奈良市役所において、平成27年1月定例総会が開催されました。総会では、議案について慎重審議され、原案どおり可決されました。

議案

- 一、平成27年度奈良市農業委員会事業計画(案)について
 - 1 事業方針
 - 2 事業計画
 - 3 平成27年度の目標及びその達成に向けた活動計画(案)について
- 二、奈良市農業委員会農地台帳点検等実施規程の制定について
- 三、農業委員会委員選挙人名簿登載申請書の送付について



大西 崇夫
農業委員会会長



仲川 げん
奈良市長

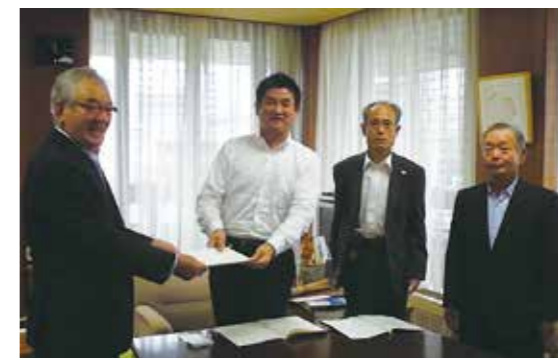


土田 敏朗
市議会議長

●『平成27年度 農業施策に関する要望書』を奈良市長へ提出

農業委員会では、昨年10月19日、奈良市の農業施策に関して、仲川げん奈良市長に対し、要望を行いました。この要望は、本市農家が抱える課題の解消や対策を求めるもので、次の3つの事項について要望しました。

- 一、遊休農地・耕作放棄地解消対策
 - ・鳥獣による被害防止対策を推進すること。
- 二、担い手確保と地域活性化対策
 - ・「人・農地プラン」の作成対象区域の拡大を図ると共に、地域ぐるみで農地管理ができる体制を早急に整備すること。
 - ・農家の収益向上と安定した経営を維持するため、奈良ブランド品の開発や6次産業化と農商工連携への取り組みを図ること。
- 三、農家と消費者の交流対策
 - ・地産地消の推進と、市民農園の整備促進や直売施設を整備すること。



市長室にて
右から
鳴田圭堂 農政部会長
西井 隆 農地部会長
仲川げん 奈良市長
大西崇夫 農業委員会会長

農業者年金受給者の皆さんへ

現況届の提出について

現況届は、現在受給中の方が引き続き年金を受給する資格があるか否かについて、毎年1回確認するためのものです。現況届が期限内に提出されないうちは、11月の支払いから提出されるまでの間、年金の支払いが差し止められますのでご注意ください。

現況届の提出が必要な方へは、5月末頃に(独)農業者年金基金から現況届の用紙が直接受給権者に送付されます。提出は6月1日～6月30日までに、連絡所・出張所・行政センター・農業委員会事務局へ提出してください。

今年、初めて経営移譲年金の現況届を提出される方は、農業経営に関する諸名義が変更されているか確認の上で、提出をお願いいたします。

お問い合わせ

(独)農業者年金基金 給付課
03-3502-3945
奈良市農業委員会事務局
0742-34-4776

農業委員会活動に対するパブリックコメント (意見公募)の募集について

農業委員会では、「法令事務：農地法に基づく許可など」及び「促進事務：農地等の利用集積や農地パトロールなど」の業務を行っています。

今回、「平成26年度農業委員会活動の目標及びその達成に向けた点検・評価」及び「平成27年度農業委員会活動の目標及びその達成に向けた活動計画(案)」を策定しました。つきましては、市内の農業者等の皆様方から意見を市のホームページに掲載し、意見を募集いたします。

募集期間は

平成27年4月の公開日～

1ヶ月間

となっております。

意見の提出方法につきましては、任意用紙に「農業委員会の平成26年度目標及びその達成に向けた点検・評価」又は「農業委員会の平成27年度目標及びその達成に向けた活動報告(案)」への意見と明記して、住所・氏名・ご意見等をご記入の上、郵送・FAXまたは電子メールでご提出してください。

電話や窓口等での口頭での申し出は出来ません。また、いただいたご意見・ご要望に対する個別の回答はいたしませんので、ご了承ください。

- ・市のホームページ (受付) <http://www.city.nara.lg.jp>
- ・郵送の場合 630-8580
奈良市二条大路南一丁目1番1号
奈良市農業委員会事務局
0742-34-4797
- ・FAXの場合 nougyouinkai@city.nara.lg.jp
- ・電子メールの場合



このコーナーでは、地域でがんばって
おられる農業者を紹介します。

標高510mの大和高原。

澄んだ空気と水、緑豊かな自然条件、特に夏は冷涼な気候で、牛にはストレスの少ない恵まれた環境の中で、「大和牛」を肥育しておられる中尾さん。

中尾牧場では、昭和45年から、黒毛和牛を肥育し始めました。現在約100頭の大和牛を肥育しています。



牛舎

奈良のブランド牛「大和牛」 都祁南之庄町

中尾 茂さん (66歳)
中尾 彰さん (37歳)

大和牛とは・・・

奈良県(大和)で育てられ、次の条件を満たした肉を「大和牛」のブランド名をつけています。

「大和牛」とは、黒毛和種の未經産メス牛の中から、生後30ヶ月以上、指定大和牛生産農家で肥育された牛のことをいいます。

中尾牧場では、昔から肉牛(※つる牛)を飼っていました。しかし、他県のようにブランド化された名前が無かったので、ブランド名がつけば、たくさんの方に知ってもらえると考え、奈良県大和牛流通推進協議会を発足、「大和牛」と命名しました。奈良県大和牛流通推進協議会で指定された大和牛生産農家は、6農家でしたが、現在は16農家あります。

※つる牛とは：体型や能力に優れた特徴を有し、かつその形質を確実に子孫に遺伝する優良系統を「蔓」と呼び、その系統に属する個体をつる牛と呼んでいる。

大和牛の日常・・・

1番に大切にしているのは、ストレスを与えないことです。牛の寝床にはおが屑をひき、天井から扇風機の風を送り環境を整え、牛が日々を過ごしやすいようにしています。ささいな牛の変化を見分け、早期発見・早期解決することにより、ストレスにならないよう気をつけています。

1日2回、朝と夕方に、エサをやります。1回につき2時間くらいかかります。

主なエサは、麦・※ふすま・とうもろこし・大豆かす、ワラ(特にコシヒカリのワラが良い)を、それぞれの牛の月齢や体調に合わせて、独自に配合したものを与えています。

ワラ以外は輸入ですが中尾牧場は、地元の稲ワラを与えることにこだわっていて、都祁地区の稲刈り後に、交渉した農家さんの田んぼに赴き、分けていただいたり、牛のたい肥と交換したりしています。このたい肥は1年間かけて発酵たい肥にし、販売もされています。

忙しい中にもかかわらず、家族そろって快く取材に応じてくださいました。本当にありがとうございました。

※ふすまとは：小麦粉の製粉工程で取り除かれる「小麦の皮」の部分を「ふすま」といい、食物繊維や鉄分、カルシウムなどの栄養素が豊富。



たい肥

大和牛の行き先・・・

県内で指定された農家が、奈良県食肉流通センターに出荷して、「大和牛」になります。そこから指定卸売業者が、セリで「大和牛」を購入します。卸売業者が卸す小売店等には、指定はありません。大半は奈良県内で卸され、販売されています。



大和牛ロゴ
「大和牛」の「や」を圖案化したもの



地産地消・・・

奈良県内では、他県のブランド肉が多く消費されています。

地元で育った美味しい和牛を、地元の方々に食べていただきたい、という願いから「大和牛」が生まれました。

大和牛の旗やステッカーを見かけた際は、是非一度ご賞味ください。



稲わらを集める機械



仔牛と早谷さんと勇仁くん

奈良市都祁南之庄の民家より少し離れた高台に、大和牛の牛舎が建てられています。牛舎の建て方も工夫されていて、風通しが良いので気持ちよく感じました。肉用牛肥育の認定農業者です。宮城県などから生後10ヶ月の仔牛を買入れ、20ヶ月以上肥育をされます。今は円安のため、輸入の餌代が高騰し大変な中、幼少年ながらも牛が好きで未来の4代目に、夢がふくらみます。

農政部会 第3部門担当 北中 正純

今回は、環境と恵まれた気候風土の中で、安心と良質な大和牛の肥育(食肉用の家畜を太らせるために、運動を制限し良質の飼料を与えて飼育すること)に携わっている畜産農家で、三代目を中心として家族総出で愛情込めて育てておられる中尾さん一家を取材しました。驚いたことに、牛舎は間伐材を使い家族で建てた手作りだそうです。貴重な時間を頂き、ありがとうございました。

農政部会 第3部門担当 出口 礼次郎

仔牛を求めて・・・

仔牛市場に赴き、生後10ヶ月のメスの仔牛を購入し、肥育します。

「大和牛」を肥育する中で、重要なのが血統です。特に母親の方が重要になります。

「大和牛」に適した仔牛を求め、はじめは九州の鹿児島県や、東北の岩手県など、全国各地に仔牛を買いに行っていました。その中で「大和牛」の条件と中尾牧場の肥育方法に見合った仔牛に出会ったのが宮城県でした。年間4〜5回(3〜6月頃)くらい宮城県に赴きます。

ブランド名というのは、牛が一番長く肥育された場所、それぞれのブランド牛の条件を満たした牛が、そのブランド名の牛として出荷されます。元はみな同じ「仔牛」です。1年間に約50頭が入れ替えになります。

仔牛購入後、1年8ヶ月(20ヶ月)肥育し、美味しい「大和牛」になるように、愛情をいっぱい注いで育てていきます。



血統書

エサやり中の彰さん



農 耕 と 神 事

その四

～春日大社の農業祭祀～

その年の新穀豊穰を感謝する祭。収穫祭にあたるもので、11月23日に天皇が五穀の新穀を天神地祇に進め、また自らもこれを食して、その年の収穫に感謝する。

当日は、当社の神田で収穫した新穀を大前に献じ、社前の稲垣には懸税(かけぢから)と呼ばれる株付きの稲穂がかけられます。

新嘗祭 (十一月二十三日)

松苗は、枚岡の神が春日の地へ神幸の途中、白毫寺の宅春日の地で松苗を用い、不作に悩む民を救われた古事に基づくそうです。

御田植祭 (三月十五日)

明治5年から、現在の日に行われるようになり、本社の林檎の庭・榎本神社階下・若宮神社前の3ヶ所で、八乙女が松苗を植える所作を行う田舞が、神楽男の奏する田植歌に合わせて奉納されます。

祈念祭 (二月十七日)

1年の五穀豊穰などを祈る神道の祭祀であり、11月の新嘗祭と対になるとされています。この年の豊穰を大神様に祈念します。

農業に関するアンケート実施

地域農業および農村の活性化を図ると共に、施策として実現できるよう、12月6日(土)JAならけん柏木支店において「2014みのりの秋ふれあい感謝祭」が開催され、会場にテントを設置し、農業に関するアンケート調査を行いました。大勢の方にご協力いただき、300件の回答をいただきました。



明治6年から昭和22年まで「新嘗祭」という名の祝祭日であった。以降も「勤労感謝の日」と改称されて国民の休日となっている。固定日の休日としては、最も長く続いている休日です。



奉納されている農作物

●メリットがたくさんある農業者年金に加入して、老後に備えましょう。

加入要件は

- ①年齢要件… 60歳未満
- ②国民年金の要件… 国民年金第1号被保険者
- ③農業上の要件… 年間60日以上農業に従事

上記3つの要件を満たす人は誰でも加入できます。
農地を持っていない農業者、配偶者、後継者などの家族従事者も加入できます。



<h4>POINT 1</h4> <h5>保険料の国庫補助</h5> <p>特定の要件を満たす農業者には、一定の条件の下で保険料の国庫補助が受けられます。</p>	<h4>POINT 2</h4> <h5>税制上の優遇措置</h5> <p>①支払う保険料は全額社会保険料控除の対象 ②受けとる年金は公的年金等控除が適用 ③運用益も非課税</p>	<h4>POINT 3</h4> <h5>80歳まで保証</h5> <p>仮に加入者や受給者が80歳前に亡くなられた場合でも「死亡一時金」をお支払いできます。</p>
---	--	---

◆ 奈良市賃借料情報 ◆

地域の実勢にあった賃借料情報を提供いたします。
平成26年1月1日から平成26年12月31日までに農業経営基盤強化促進法により賃貸借契約された賃借料の水準は、下記のとおりとなっています。
なお、この賃借料は目安ですので、実際の賃借料を決める際は、当事者間で話し合いの上で決めてください。
※金額については、10円単位(四捨五入)で表示しています。

地域別	26年			(参考) 25年平均額
	平均額	最高額	最低額	
中部	7,350	11,000	1,530	10,150
西部	9,000	21,320	60	10,000
南部 (施設園芸含む)	19,680	44,600	9,850	12,260
東部	9,560	10,000	100	13,740
月ヶ瀬・都祁	5,440	35,460	1,080	9,270
(参考) 奈良市平均	10,210			

※ 賃借料を物納支給している場合は、米30kg当たり5,000円に換算しています。

地域別	26年			(参考) 25年平均額
	平均額	最高額	最低額	
月ヶ瀬	11,200	18,850	6,510	23,760



全国農業新聞

経営とくらしに役立つ
情報をお届けします!
農家のための情報誌

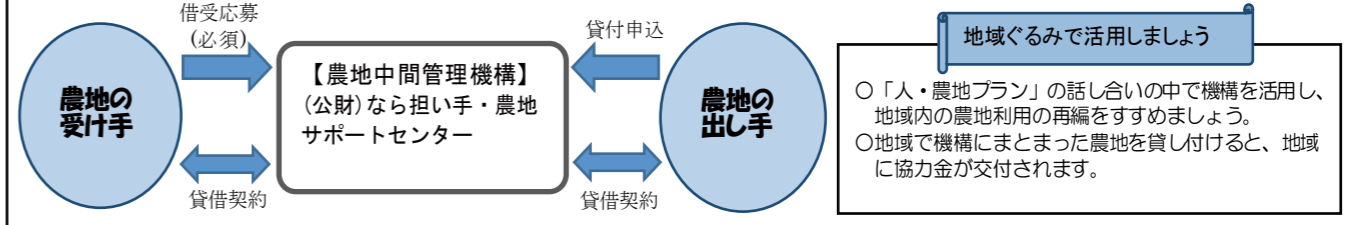
◆発行日 週一回(金曜日)
◆発行元 全国農業会議所
◆購読料 月700円
[送料・税込み]

○お申込は農業委員会事務局
(34-4776)まで。

農地中間管理事業を活用して

担い手への農地集積をすすめよう!

(公財)なら担い手・農地サポートセンター(農地中間管理機構)では、規模縮小や高齢化等により離農する農家(農地の出し手)から農地を借り受け、規模拡大したい農家や新規就農者等(農地の受け手)に貸し付ける「農地中間管理事業」を実施しています。
この事業では、農地の出し手農家や地域に機構集積協力が交付されるメリットを受けられる場合があります。
農地の貸借をお考えの方は、農地中間管理機構(または奈良市農林課、農業委員会)へお気軽にご相談ください。



- #### 農地中間管理事業のポイント
- ①農地を貸したい方(出し手)
⇒対象となるのは「農業振興地域」内の農地です。
貸付申込みは随時受け付けています。
 - ②農地を借りたい方(受け手)
⇒機構が実施する借受希望集への応募が必要です。
(募集時期は機構へお問い合わせください。)
 - ③借受者(受け手)の決定
⇒貸付希望農地の情報と受け手の希望を基に、機構が定める基準により決定します。

【農地中間管理機構】
公益財団法人なら担い手・農地サポートセンター
〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町53
TEL 0744-21-5020
FAX 0744-29-8125
E-mail: narakenougyoukousya@eos.ocn.ne.jp

奈良市農業委員会では、平成24年度から遊休農地解消モデル事業の取り組みを行っています。

今年度は、大柳生町にある約800平米の農地をモデルほ場に選定し、景観形成作物としてコスモスの植栽及び看板「遊休農地を解消しよう」を設置し、多くの方に遊休農地を解消する意識を持っていただき、遊休農地や耕作放棄地の解消を呼びかけています。

6月に草刈りを行い、トラクターで耕起し、コスモスの種をまきました。花を咲かせるまでの間、草刈り・除草・肥培管理を行い、10月にはきれいな花を咲かせました。11月に収穫したコスモスの種は、農業に関するアンケートなどの啓発用として配布し、またモデル事業のPRとして、市内の保育園・幼稚園・小学校・中学校から希望を募り、配布しました。



平成26年 遊休農地解消モデル事業



つつがゆまつり
筒粥祭 (登彌神社)

毎年二月一日(旧暦正月)、登彌神社にて筒粥祭が行われます。その年の五穀や野菜など三十七種の作柄の出来・不出来を粥で占います。鉄製の火釜に米二升、小豆一升と竹筒三十七本を入れて炊き、約一時間半もかけて炊きあげます。竹筒を取り出して供え、小刀で割ります。米と小豆の詰まり具合を上・中・下に分け、さらに上・中・下に分類して、計九段階に農作物を占います。今年度は南京やぶどう・古都華などの出来が良いという結果になりました。



▲平成27年度 筒粥祭占いの結果

編集後記



任期満了による農業委員の改正に伴い、新たに37名の農業委員が就任し農業委員活動に取り組み新体制が整い、8月に6人が新しく農政部会第3部門担当委員として「なら農業委員会だより」の編集・発行をおこなっています。

今回の発行にあたり、未経験ながらも企画会議・取材・編集を行いました。シリーズのがんばるファーマーでは、大和牛を肥育しておられる一家を取り上げ、取材させていただきました。「奈良のブランド牛」をこれからも広めていただけたらと思います。取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

これからも農業者と農業委員会を結ぶ広報誌として、頑張っておられる農業者の皆様により読みやすく、充実した親しめる紙面を目指し、編集委員一同取り組んでいきます。

町内・地域で農業に係る行事等や、皆様方のご意見・ご感想・情報等をお待ちしております。

農政部会 第3部門長 辰巳 貢